

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

国際社会や地域社会において、グローバルな視点で物事を思考し、思考した中から最善のものを判断し、判断したものを発信できる人材を育成する学校
— 国際社会や地域社会において持続可能な開発のための目標（SDGs）2030 アジェンダを実践できる人材の育成 —

2 中期的目標

国際社会・地域社会で活躍する生徒の育成という本校の目標の実現をめざす。

1 確かな学力の育成及び希望進路の実現

(1) 基礎学力の着実な定着

- ・1日7時間授業を行うとともに、知識習得型授業と探究型授業をバランスよく組み合わせる。
- ・大学や研究機関との連携による学習、体験型学習を数多く実施することにより、学習に対する関心・意欲を高め、知識・スキルを定着させる。

(2) 専門分野における活用力・探究力の向上

- ・研究指定等を積極的に活用し、知識・技能を活用する力の向上を図り、質の高い研究が行えるよう指導する。
- ・研究者・企業関係者等との連携を進め、評価・助言を積極的に受ける。
- ・校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組む。
- ・論文をはじめとする様々な形態のプレゼンテーションを行う機会を増やし、質の向上を図る。

(3) 全ての生徒の希望進路の実現

- ・生徒一人ひとりの1～3年次の学力等の伸長記録である「生徒カルテ」（平成27年度作成）を活用する。その指標に基づき、生徒の学力や学校生活等に係る意識について把握し、指導・支援する。
- ・土曜日の補習・講習等を計画的かつ生徒のニーズにあうように実施する。
- ・大阪大学を中心とした国公立大学現役合格者数100人以上をめざす。（29年度 68人 30年度 61人 31年度 90人）

2 豊かな人間性の涵養

(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成

- ・部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導を行い、生徒の自己管理能力を高めるよう指導する。
- ・すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援する。特にホームルーム指導や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。
- ・ICT機器等を正しく活用できるよう、活用ルール（平成27年度作成）に基づき計画的に指導する。

(2) 共生・共助の精神の涵養

- ・卒業生との連携協力を強め、社会貢献に取り組む人々たちによる講演や交流を行うとともに千里版人材バンクを設立し、活用を図る。
- ・千里フェスタに向けての協同的な研究により多様な仲間との価値の創造の大切さを学習させる。

3 教員の指導力の向上

(1) 学習指導方法の工夫改善

- ・教材・資料・指導方法について教科において研究・交流を図り、統一・共有化を進める。
- ・タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発と充実を図る。

(2) 先進的な教育に取り組むための研究及び研修の充実

- ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のためのPDCAサイクルを的確に図る。
- ・授業アンケートを適切に活用し、指導と評価の一体化を図る。
- ・次期学習指導要領に則した教育課程の編成を研究する。

(3) 働き方改革への適切な取り組み

- ・時間外労働の削減を図る。職員会議等で時間外労働の数値結果を連絡する。
- ・機能的・合理的な組織体制を構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>➤ 学校教育自己診断全般にわたって 各種質問の肯定的回答率が前年度に比して増加しているものもあれば、減少しているものもあり、例年よりもばらつきが多い。コロナ禍という特殊な環境で教育活動が営まれている影響が多分にある。「千里高校に入学してよかったと思っている」という質問項目については昨年度に引き続き3.6ポイント増加しており、好ましい傾向が継続している。また3年生の生徒の全項目にわたって肯定的評価の伸び率が著しく、3年間の指導の成果が顕著に表れている。</p> <p>➤ 授業全般について 「授業で学力をつけることができる」という項目について、肯定的評価が7ポイント伸びている。コロナ禍ではあるがタブレットの活用が有効に機能している。またほとんどの教科で「学力をつける」という質問項目の肯定的評価が6～10ポイント増加している。教員の努力の証であると自負している。それが学校への信頼へとつながっている。今年度は例年行ってきた授業研究が実施できなかった。研究体制をしっかりと築き、さらにわかりやすく質の高い授業づくり及び学習評価を推進していきたい。</p>	<p>第1回 期間を限定し、動画視聴及びメール等による審議 今年度の学校経営計画の説明 「グローバルな視点で思考、判断し、発信できる人材の育成」をめざす学校像とする。</p> <p>➤ 進路状況で国公立大学の合格者が大幅に増加したことはとても嬉しく思う。今年度は1名でもこれを上回るべく努力してもらいたい。</p> <p>➤ 休校中のオンライン授業については全員にタブレット配付されているのでスムーズに行われ、PTA 委員からの評判も良かったと聞いている。</p> <p>第2回 12月15日(水) 16:00～16:40 学校経営計画の進捗状況の説明</p> <p>➤ コロナ禍における学校行事 体育祭・文化祭等、生徒と話し合い、感染症対策を万全にとりながら実施した。 →海外研修等も実施が難しくなっているが、オンラインを活用し海外との交流を継続してほしい。</p> <p>➤ タブレットを用いた教育活動 →千里高校が府立学校のモデルとなるように努めてもらいたい。</p> <p>第3回 期間を限定し、動画視聴及びメール等による審議 今年度の振り返り及び次年度の学校経営計画</p> <p>➤ 今年度の教育活動については、コロナ感染症対策の影響を大きく受けている中で、創意工夫を凝らして、教育活動を展開されたことに敬意を表する。</p> <p>➤ 学校教育自己診断の生徒アンケートを総合して考えると、生徒と先生との関係が希薄になっているという疑問が生じる。日常的に生徒との関係づくりについて振り返ってもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価(評価指標欄内の「 」は学校教育自己診断の項目)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成及び希望進路の実現	(1) 基礎学力の着実な定着 (2) 専門分野における活用力・探究力の向上 (3) 全ての生徒の希望進路の実現	(1) タブレット等の積極的な活用により授業の充実を図り、全ての生徒の学力の伸長をめざす。 (2) ・課題研究(「探究」「科学探究」)を関係組織と連携し、専門分野における探究力を高める。 ・外部人材からの評価・助言を受け、課題研究指導プログラムの研究開発を伸展させる。 ・SSH及びSGH中間発表時等における両学科間の交流を図る。 ・校内外の研修及び国際交流教育の質向上と効率化を促進する。 ・生徒の様々な形態のプレゼンテーションを実施する。 (3) ・3年間を見通した総合的指導計画(学習指導・進路指導・生活指導等)、及び生徒が活用し、指導・支援する。 ・土曜日の補習・講習等について計画的でニーズにあうように校内体制を整備する。	・「私は授業についていけている」80% (H31:78%) ・「ICT機器を授業等でよく使う」90% (H31:87%) ・「『探究』『科学探究』は知的好奇心を高める」80% (H31:75%) ・海外研修7回実施 ・校外プレゼンテーション参加数130人 (H31:124人) ・国公立大学合格者120人 (H31:131人) ・海外大学進学希望者100%実現 (H31:未定) ・「希望する進路を実現するための講習等が充実している」80% (H31:74%)	・「私は授業についていけている」78% (△) ・「ICT機器を授業等でよく使う」92% (◎) ・「『探究』『科学探究』は知的好奇心を高める」77% (○) ・海外研修実施せず (一) ・校外プレゼンテーション参加数50人 (一) ※コロナ禍で多くの大会に参加できず。 ・国公立大学合格者135人 (◎) ・海外大学進学希望者100%実現 (R2:未定) ・「希望する進路を実現するための講習等が充実している」73% (△)
豊かな人間性の涵養	(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成 (2) 共生・共助の精神の涵養	(1) ・部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導する。家庭学習時間確保の把握と指導を行い、生徒の自己管理能力を高める。 ・タブレット等をルールに基づき正しく活用できるよう計画的に学習会を実施する。 ・研修の充実やスクールカウンセラーとの連携により、不安定な生徒のケアを図る。 (2) ・すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導する。 ・HRで外部人材の講演等を活用し、人権学習等を充実させ、人としての在り方生き方を学ぶ道徳教育を推進する。 ・社会貢献に取り組む卒業生や専門家による講演及び連携協力を推進する。	・「家庭学習する時間を確保できている」70%。(H31:68%) ・「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」85%。(H31:82%) ・「千里高校に入学してよかったと思っている」80%。(H31:73%) ・「悩みに応じてくれる先生がいる」70% (H31:68%) ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%。(H31:82%) ・「人権について学ぶ機会がある」90% (H31:86%)	・「家庭学習する時間を確保できている」68%。(○) ・「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」82%。(○) ・「千里高校に入学してよかったと思っている」76%。(○) ※昨年度より上昇 ・「悩みに応じてくれる先生がいる」66% (△) ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」86%。(◎) ・「人権について学ぶ機会がある」85% (△)
教員の指導力の向上	(1) 学習指導方法の工夫改善 (2) 先進的な教育に取り組むための研究及び研修の充実 (3) 働き方改革への適切な取組み	(1) ・タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発を促進する ・教科において指導方法・評価について、統一・共有を進める。 (2) ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のためのPDCAサイクルを的確に回す。 (3) ・時間外労働の削減を図る。職員会議等で時間外労働の数値結果を連絡する。 ・機能的・合理的な組織体制を構築し、ICT環境を充実させ、個人情報保護にも留意する。	・授業研究ライブラリーの制作 ・「授業で力をつけることができる」85% (H31:79%) ・「学習の評価について納得できる」85% (H31:83%) ・新学習指導要領に対応するために年間の研究テーマを決めて研究授業及び研究協議を12月に実施する。 ・時間外労働時間を1割削減する。 ・ICT活用による業務の合理化を図るとともに個人情報保護にも留意する。	・授業研究ライブラリーの制作 (一) ※コロナ禍で授業研究大会が実施できなかったために制作できず ・「授業で力をつけることができる」86% (◎) ・「学習の評価について納得できる」86% (◎) ・新学習指導要領に対応するために年間の研究テーマを決めて研究授業及び研究協議を12月に実施する。(一) ※コロナ禍で授業研究大会が実施できず ・時間外労働時間を1割削減する。(○) ・ICT活用による業務の合理化を図るとともに個人情報保護にも留意する。(○)